

令和7年度東京都立篠崎高等学校 学校経営計画

東京都立篠崎高等学校長

高橋 聡

1 スクール・ミッション

基礎学力を培い自ら学び考え行動する力、自らを律し互いの人格を尊重し多様性を重んじる態度、自己肯定感を高め社会に貢献する精神を育てることを目指し、「伸ばします あなたの可能性」を合言葉に、分かる授業の実践、他者への思いやりを育む心の教育、中高連携事業や探究的活動を通して、地域社会に貢献できる生徒を育成します。

2 教育目標

自分の良さを認識し、多様な人々と協働しながら、変化の激しい社会の担い手を育成する。

○基礎学力を培い、自ら学び考え行動する力を育てる。

○自らを律し、互いの人格を尊重し、多様性を重んじる態度を育てる。

○自己肯定感を高め、社会に貢献する精神を育てる。

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

望ましい社会の一員としての規範意識を持ち、他者への思いやりや周囲への気配りができ、自己肯定感を高めながら、「自己の役割を最大限に果たすことができる生徒」の育成を通して、将来、地域社会に貢献のできる人物の育成を目指す。

(2) カリキュラム・ポリシー

教職員が本校の「グランドデザイン」の趣旨を深く理解し、授業、学校行事、部活動等あらゆる教育活動を通して、生徒に身に付けさせたい3つの観点における9つの資質・能力のルーブリック（「学習評価の観点と判断基準を明示した表」）を常に意識し、それらの資質・能力の育成を図る具体的な取組を行う。

(3) アドミッション・ポリシー

- 1 本校への志望動機が明確で、日々の授業に真剣に取り組む強い意志をもち、大学進学等の進路実現に向けて努力を惜しまぬ生徒
- 2 探究活動に興味・関心を持ち、主体的に探究活動に取り組むとともに仲間と協働できる生徒
- 3 学校行事、生徒会活動、委員会活動、部活動等に積極的に参加し、仲間と協力して互いを高めていく意欲と向上心のある生徒
- 4 文化・芸術・スポーツ活動などの分野で優れた能力を有し、入学後もより高い目標に向かって継続して取り組む生徒

2 中期的目標とその達成に向けた方策

本校は、創立当初から一貫して「地域に愛される学校」の精神を大切にし、その責務を果たしている。令和8年度に50周年を迎えることを踏まえ、改めて、地域社会に貢献できる生徒を育成し続けていく。グローバル化する世界、新たな社会(Society5.0)、予測不可能な未来に備え、本校の「グランドデザイン」に示している3項目の資質・能力を高め、地域に愛され、人や地域社会に貢献できる人材の育成を図っていく。そのために、教職員が本校の「グランドデザイン」の趣旨を深く理解し、授業、行事、部活動等あらゆる教育活動を通して、生徒に身に付けさせたい資質・能力のルーブリックに基づき、それらの資質・能力の育成を図る具体的な取組を行う。本校に関わる全ての人（教職員・生徒・保護者・地域関係者等）が、この中期的目標に向かってそれぞれ前進することをとおして、学校への帰属意識を高め、学校生活に幸福感を得られる学校づくりを実践していく。

ア 生活指導・健康教育 <社会生活の基本的なルールを身に付け、自己管理能力の育成を図る。>

- ① 生活指導（挨拶の励行、遅刻・服装・頭髪の指導、交通安全指導等）を充実させ、規範意識や道徳意識を高め、自律した生活習慣の確立を目指す。
- ② 健康教育を推進するとともに、生徒の心のケアに対応する教育相談体制の充実を図る。「学校いじめ対策

委員会」や「教育相談委員会」を活用し、いじめ防止、自殺防止に向けた校内体制を強化する。

③ 校内美化、ゴミの分別、リサイクル活動等の充実を図り、校内環境の維持と環境問題への対応に努める。

イ 学習指導 <きめ細かい授業を通して、基礎・基本の確実な定着と学力の向上を図る。>

① 「分かる授業」の実践や、習熟度別授業、少人数指導、ICT等の視聴覚教材の活用、放課後や長期休業期間における補習・講習等を実施し、生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。

② 「生徒による授業評価」や「相互授業参観」等を踏まえ、授業を工夫改善し、学力の向上を図る。

③ 世界の共通語としての英語力、思考力の土台となる国語力、論理性を追求する数学力等の向上のため、授業だけでなく、資格検定等に積極的に挑戦させる。

④ 先の読めない社会を生き抜く力を養うため、読書活動の推進を図るとともに、学校図書館機能の充実に努める。

ウ 進路指導 <キャリア教育を推進し、進路意識の醸成と生徒一人一人の進路実現を目指す。>

① 全日制普通科高校として、生徒の進路実現と学びの継続や生涯学習につながる3年間の体系的なキャリア教育を推進し、地域からの信頼と理解を得る。

② 連携4大学との高大連携事業の推進をはじめとする大学・短大進学に向けた取組を更に充実させ、進学率の向上と質の向上を図る。

③ 自己を知り、他者を知り、社会を知ることの大切さをあらゆる機会を通して体験的に学ばせ、他者への思いやりの心を育む進路指導を行う。

④ 「総合的な探究の時間」等で得られる生徒の学びの記録や模試データを共有し、担任、教科担当、部活動顧問等全教職員がそれぞれの関わりの中で、生徒の進路実現に向けたサポート体制を確立する。

エ 特別活動・部活動 <特別活動・部活動を通した「知・徳・体」のバランスの取れた人材育成を図る。>

① ホームルーム活動や生徒会活動の充実、体育祭、文化祭等の学校行事の活性化を進め、生徒の学校への帰属意識を高め、自主・自律の精神を養い、調和のとれた人材を育てる。

② 部活動への積極的な取組により、協調性、公共性を育み、達成感を得ることによる自己肯定感を高め、学校生活の充実を図る。

オ 地域交流・広報活動 <中高連携事業の推進と、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。>

① 中高連絡会の開催や体験授業、合同研修会、部活動の交流等を計画的かつ組織的に行う。

② 本校の特色ある教育活動をホームページや学校説明会等のあらゆる機会をとらえ、積極的に発信し、地域からの信頼と理解を得る等、生徒募集への取組を強化する。

カ 学校経営・組織体制 <PDCAマネジメントサイクルを活用した学校運営の推進>

① 新たな社会（Society5.0）に必要な資質・能力の育成を鑑み、新学習指導要領やグランドデザインに基づいた本校独自の教育課程を編成・実施する。

② 教職員が「チーム篠崎」として学校の課題を共有し、その課題解決に向け一致団結し、各々がやりがいと自己の存在意義を実感できるような「ライフ・ワーク・バランス」を重視した職場環境を実現する。

③ 企画調整会議や主幹会議を学校経営の中枢機能として位置付け、学校の将来に関わる方向性を組織的に検討する。また、課題解決のためのプロジェクトチーム（PT）により、調査研究を行う。

④ 経営企画室の経営参画を推し進め、各分掌、学年と相互に連携協力しながら、情報の共有化と教育活動の適切な計画化や予算化を図る。

⑤ 学校施設・設備の円滑かつ効率的な活用と適正な管理・保全に努めるとともに、さらなる有効活用方法について検討する。

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

(1) 教育活動の目標と方策

インフルエンザ等の感染症対策を継続しながら、生活指導、学習指導、進路指導、特別活動等の教育活動について、担当する分掌・学年・教科等で様々な工夫を凝らす。生徒の安心と安全の確保と学習・進路・特別活動等での学びの支援を学校全体で行う。特に、「生徒主体の学びと生徒の深い学びを引き出す学習」、「一人1台端末や teams 等を活用したオンライン学習」、「個別最適な学びについての学習」について積極的に取り組む。

さらに、教職員の様々な強みを活かして、「生徒に今日も篠崎高校に来て良かった」という充実感をもたせる教育活動の工夫と実践を行う。

ア 生活指導・健康教育

<目標>

挨拶の励行「あ」、時間を守る「じ」、身だしなみを整える、頭髮指導、服装等の指導「み」、通学時の交通安全マナーとモラルの向上「つ」の「あ」「じ」「み」「つ」運動を展開して、生徒の自己管理能力（自律心）の育成を図る。

<方策>

- ① 全教職員による挨拶の励行「あ」、時間を守ることの遅刻指導や提出物の提出指導「じ」。身だしなみを整える、頭髮指導、服装等への指導「み」、通学時の交通安全マナーとモラルの向上「つ」の「あ」「じ」「み」「つ」運動の指導を徹底し、基本的な生活習慣とモラルを身に付けさせ、凡事徹底できる「篠高生」を育成する。
- ② 時間厳守の基本である登校時間を守らせ、生徒の遅刻防止につなげるとともに提出物の提出期日を守らせる。
- ③ 登下校時の交通ルールやマナーの遵守、特に自転車通学者には、ヘルメットの着用、傘さし・イヤホン・並進等の禁止等について指導を徹底して、生徒の通学時の交通安全マナーとモラルの向上を図る。
- ④ 教育相談委員会を充実させ、スクールカウンセラーと連携し、生命尊重の精神やいじめの未然防止を図るとともに、適切に生徒に「SOS」を発信することができるように指導をする。
- ⑤ 年間2回の面談週間を活用し、家庭・保護者との連携を深め、家庭や学校外における生徒の状況把握と情報共有を行い、生徒の出すサインを見逃さない体制を構築する。
- ⑥ SNSに関する情報モラルについての指導を徹底する。
- ⑦ ゴミの分別や清掃活動等を通して校内環境の維持に努め、リサイクル活動など環境問題に向けた取り組みに着手する。

イ 学習指導

<目標> 生徒主体の学びと生徒の深い学びの授業の充実で基礎・基本の確実な定着と学力の向上を図る。

<方策>

- ① 50分の授業を有効活用するため、チャイム始業、チャイム終業を徹底する。
- ② 「分かる授業」を合言葉に、毎時間の授業では、授業の始めに「本時のねらい」を明示し、授業の終わりに「本時の振り返り」を行う。ICT等の視聴覚教材を積極的、効率・効果的に活用する。
- ③ 全教職員に「令和7年度授業観察ルーブリック」を配布して、生徒主体の学びや生徒の深い学びを引き出す授業場面の工夫と増大を図り、生徒に「わかる」⇔「できる」を体感させる授業実践を行う。
- ④ 「習熟度別授業」「少人数指導」を継続して行い、生徒の実態や習熟度に応じたきめ細かい指導を行う。
- ⑤ 放課後や長期休業期間等を活用し、生徒の実態の応じた補習・講習の充実を図る。個別指導も進め、基礎・基本の確実な定着を図り、進路実現に結びつける。
- ⑥ 定期考査、「生徒による授業評価」、年2回の「相互授業参観月間」等を活用し、授業改善を行う。
- ⑦ 各種検定取得に重点を置き、成功体験と成就感を持たせる指導を展開する。漢字検定、英語検定の全員

受験や数学検定、情報関連の検定等も推奨し、検定受検者及び取得者の増大を図る。

- ⑧ 学校図書館を授業で使用するなど活用頻度を増やし、生徒の読書活動を計画的に実施する。

ウ 進路指導

＜目標＞ 「人間と社会」「総合的な探究の時間」と進路活動を有機的にタイアップさせ、生徒が自己理解を深め、適切な進路選択と進路実現を図ることができるようにする。

＜方策＞

- ① 大学入試説明会、進路ガイダンス、大学教員のデリバリー講座、合格者体験発表会、卒業生との懇談会、模擬試験業者と連携を強化する等、進路行事を計画的・意図的に実施し、生徒一人一人の将来設計に基づいた進路指導を行う。
- ② 進路行事で、「わかったこと」、「調べてみようと思うこと」、「進路決定に向けてすべきこと」を自分の言葉で書かせたり、一人1台端末に入力させたりする活動を通して、進路決定のプロセスを記録として残す指導をする。
- ③ 聖徳大学、東洋大学、立正大学、千葉商科大学の4大学との高大連携事業を一層推進するとともに、生徒の進学意欲を高め、大学・短大への進学率の向上と進学実績の向上を図る。
- ④ 「学校推薦型選抜」「総合型選抜」で必要な面接指導や小論文指導等を学校全体で取り組む。
- ⑤ 「人間と社会」（1年）、「総合的な探究の時間」（2・3年）での体験学習や探究学習を通して得られる思考力、判断力、表現力等の力を、生徒の進路活動に生かせるよう指導する。

エ 特別活動・部活動

＜目標＞ 特別活動や部活動を通して、他者理解につながる思いやりの心を育み、人間力の向上を図る。

＜方策＞

- ① 生徒の主体的な活動を支援し、体育祭や文化祭等の学校行事を充実させ、学校生活に対する満足度を高める。
- ② 部活動への加入率・定着率を向上させる。新入生は、全員が部活動に加入し、活動を通して新たな経験を得ることを目指す。生徒の興味・関心に合わせ、文化系運動系を問わず、1部活動への所属を推奨する。
- ③ 各部活動の近年の実績を超えることなどを目標（剣道部：関東大会出場、硬式野球部：東東京大会ベスト4、和太鼓部：各コンテスト金賞、ダンス部：全国大会入賞、軽音楽部：全国大会出場入賞、ファッションデザイン部：全国大会入賞、陸上競技部：都大会入賞、女子バレー：都ベスト64、など）とし、生徒の実態に応じながら、各部活動の取組を充実させ、心身を鍛える機会とする。
- ④ 文化・スポーツ等特別推薦の実施により、卓越した能力をもつ生徒の個性や技能の向上、充実した学校生活を目指す意識を持たせ、学校のさらなる活性化と発展に寄与させる。
- ⑤ ボランティア活動、生徒会活動、中高連携部活動交流、篠高杯剣道大会、文化部発表会、江戸川区民まつり等の地域での行事に積極的に参加し、中学生や地域との交流を深め、思いやりの心を育む。
- ⑥ 芸術鑑賞教室やJET、ALTとの交流を通して、日本の伝統文化や異文化を理解する教育を進める。

オ 地域交流・広報活動

＜目標＞ 中高連携事業の充実や広報活動の活性化を通して、入学選抜の応募倍率の向上を図る。

＜方策＞

- ① 近隣6中学校（江戸川区立篠崎中、篠崎第二中、鹿骨中、瑞江中、小岩第二中、松江第五中）との定期連絡会や中高連携生活指導連絡会、体験授業、教員合同研修会等を充実させ、学校への地域理解と協力を得る。
- ② 近隣の保育園、小学校、中学校をはじめ、大学や企業、自治体等との連携を積極的に推進し、生徒によるボランティア活動等の主体的な活動を促し、生徒自身が進路選択などを探究していく機会を設ける。
- ③ 学校説明会での学校紹介、学校運営連絡協議会での協議、本校のホームページでの配信等を通して、本校の教育の実践と成果を積極的に地域に発信し、広報活動の活性化につなげる。

- ④ 生徒による「防災活動支援隊」を組織し、避難訓練実施時等、生徒が防災活動の補助的役割を担えるよう支援する。また、防災サミット等で他校との有意義な交流ができるように指導する。
- ⑤ 管理職を中心に学校として組織的に中学校訪問、塾訪問等を実施する。

カ 学校経営・組織体制

＜目標＞ 教職員の経営参画意識を一層高め、PDCAマネジメントサイクルの活用やOJT等を通して経営組織体制を強化する。

＜方策＞

- ① 本校の「グランドデザイン」に基づき、育成すべき資質・能力を向上させるために、教科横断的な学び等の教育活動全体を組織的に行う。
- ② 全教職員が、それぞれの強みを最大限に発揮し、「どのように篠崎高校に貢献するか」を考え「チーム篠崎」の心意気で、楽しく意欲的に安心して業務を遂行して「今日も篠崎高校に来て良かった」という充実感を得ることができるよう職場環境の整備をする。また、男性職員の育児休暇取得を奨励するなど「ライフ・ワーク・バランス」に配慮した組織的な学校運営を進めていく。
- ③ 部活動指導員・外部指導員の活用、ICTの有効活用を進め、働き方改革につなげる。
- ④ すべての分掌・学年・教科が年度当初に組織目標を定め、中間報告、年度末総括を行う。
- ⑤ 授業力向上のため、学校内外の研究授業や研究協議、研修会等に積極的に参加する。
- ⑥ 「地域探究推進校」（令和3年度から令和6年度までの4年間指定）の実績をもとにして、総合探究推進委員会により、「総合的な探究の時間」の計画立案及び調査研究、「グランドデザイン」の改善や具体的な取組内容を検討し、企画調整会議をはじめ、教科主任会・教科会の組織活性化等を通して、本校のカリキュラム・マネジメントを推進する。
- ⑦ 「海外学校間交流推進校」として、英語科の協力のもと、国際理解教育推進PTにおいて、海外修学旅行、海外語学研修旅行、高校生海外派遣事業への応募など、海外の中高生との交流を行いながら異文化理解や多文化共生を充実させる。
- ⑧ 経営企画室の経営参画意識を高め、生徒の安全・安心で快適な学校環境を整える。なお、防火防災等に係る設備点検や避難訓練実施に向けた事前連絡、事後の課題検討等を教員と連携して行う。
- ⑨ 経営企画室の職員の各職層に応じた資質・能力の向上を図る。また、充実した教育活動を推進するため、予算執行や施設整備等、経営企画室所掌事項において適宜改善を図る。
- ⑩ いじめ防止、服務事故防止（体罰、個人情報の管理等）、その他必要な校内研修を実施し、いじめや服務事故の未然防止や教員の資質・能力の向上を図る。
- ⑪ PTA及び同窓会と連携し、質の高い教育効果が期待できる取り組みを行う。

（２）数値目標

項目	令和7年度目標値	令和6年度	令和5年度	令和4年度
生徒の学校生活の満足度	90.0 %以上	90.0 %	91.7 %	87.0 %
生徒の授業への満足度	90.0 %以上	87.0 %	88.9 %	87.0 %
大学・短大進学率	70.0 %以上	64.1 %	64.1 %	70.0 %
入学選抜推薦(特別)応募倍率	1.80 倍	1.67 倍	1.67 倍	1.69 倍
入学選抜推薦(一般)応募倍率	3.30 倍	3.11 倍	3.11 倍	男子 3.21 倍 女子 3.46 倍
入学選抜一次応募倍率	1.30 倍	0.84 倍	1.20 倍	男子 1.27 倍 女子 1.21 倍